

ドル／円(4/9) 4月になるも、もみあいが続く



コメント

先週の値動き＝依然、方向感なし。月曜日に119円台回復を試すも反落。週末にかけて3日続伸で118.28円で引けた。

今週の指標＝月曜日、本邦機械受注。火曜日、独ZEW景況感調査、日銀金融政策決定会合結果。水曜日、米貿易収支。木、金も米指標が続く。

テクニカル＝引き続き26週線をまたぎ、もみあい継続。ボリンジャーバンドの幅も縮小中。4月に入り、本邦からの新たな外債設定などで、ドル高が進むとの見方もあったが、動意薄の展開。13週移動平均線も117.16円と、目立ったゴールデンクロスやデッドクロスの発生もないようだ。(ゴールデンクロスとは、巷の本で人気のある売買手法)

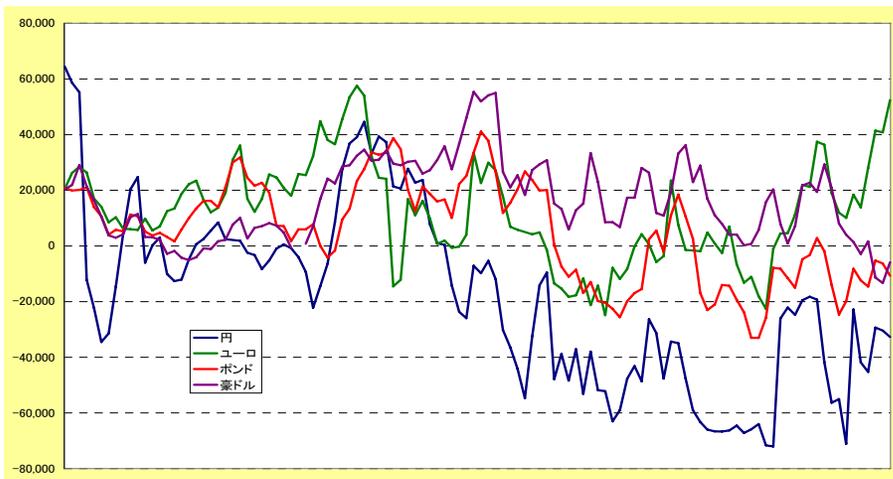
テクニカル・レート

ボリンジャー+2σ =	120.88円	先週始値 =	117.77円
26週移動平均線 =	117.28円	先週高値 =	118.78円
ボリンジャー-2σ =	113.68円	先週安値 =	116.68円
13週移動平均線 =	117.16円	先週終値 =	118.28円

今週の投資例

トレンド＝もみあい
現在値＝118.28円
エントリー＝様子見
指値＝
逆指値＝

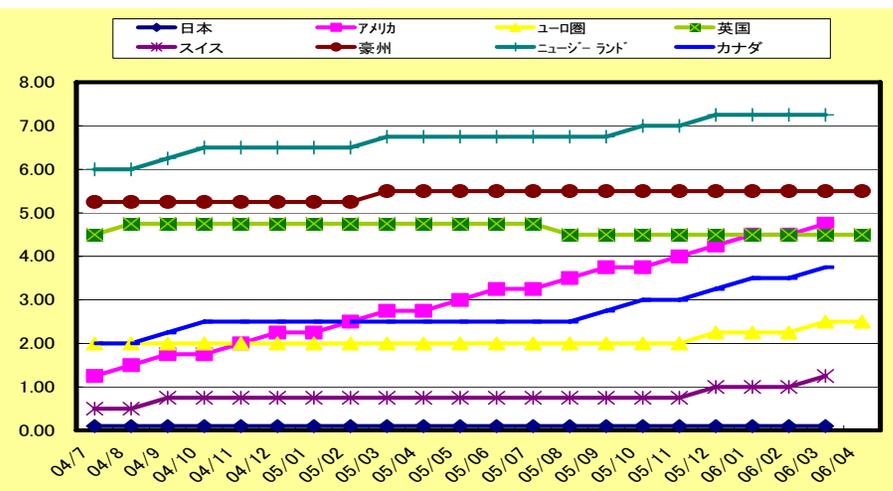
ユーロ急落直前、ユーロロングは過去最高水準にあった



IMM投機筋ポジション動向

4月4日までの状況では、シカゴIMM投資筋の円の売り持ちは約▲3.2万枚。先週から約▲0.2万枚とやや円の売り越しが拡大した。4日のドル円相場は117.45円。直近4月7日は118.28円。やや円売りポジションが拡大しているか。

なお、4月4日までのユーロの状況は+5.2万枚。2004年から見ると、高水準にある。6、7日の急落の背景は、ユーロロングのポジションの調整がしたかっただけの可能性も。「今後のECB政策金利どうなる」というのは、ちょうど都合の良い材料にすぎなかったのかもしれない。



各国金利動向

先週は、豪州RBA、英国BOE、欧州ECBの政策金利が発表され、いずれも据え置きとなった。

特に、ECB政策金利については今後の思惑から、ユーロ売りの展開に。堅調だったユーロドルは木、金曜日で急落。1.23ドル台から1.20台へ。2日で250p近く下げる結果になった。

また今週は、日銀金融政策決定会合が開かれる。量的緩和政策が終了したものの、利上げは当分ない見通し。4月から住宅ローンの金利が上昇するなど、日本人にはやはり気になるところ。